

「イチゴが売っている」という表現

又平恵美子

キーワード：誤用、自動詞と他動詞、テイルとテアル、受身、状況

要 旨

日本語母語話者の会話で「イチゴが売っている」というような表現が使われることがある。商品が「ガ」で示されるのは、単なる言い誤りによる格の誤用として処理してしまうには出現の頻度が高く、一つの定型構文として成立してしまっているものであると考えられる。

動作主ではなく対象が「ガ」によって表示されていること、必ず「売っている」などテイル形で現れるということ、商品の所有権が移動しないという状況に限定されているということがその構文が成立可能となる特徴としてあげられる。このような表現が存在し得る理由は、「商品として物が存在している」ということだけを表現するためには、冗長的でない規範的な言い方では言い表しにくいということが考えられる。

1. はじめに

明智抄のコミック「サンプル・キティ」第3巻(1995年・白泉社刊)のエッセイに、次のような指摘がある。

うちのアシさん達はよく「そこのスーパーでイチゴが売ってた。」とか言います。それを聞くたびに私は「イチゴは何も売らない。イチゴが売られるのである。」と答えてしまいます。「正しくは『イチゴを売っていた』もしくは『イチゴが売られていた』とゆーのだ。」と私の見解を述べるのですが、みんな「いや！これで正しい!!」とゆずらない。「みんなこう言っている。これは正しい日本語だ!!」。それぞれに学生時代現国が得意だった人達の、しかも三対一の論争では私は気圧されがち…。でもそれじゃあイチゴが店員だもん！とゆーわけで、私は『イチゴが売ってた』って若者言葉でもあるけれど、もしかすると大阪府北部の方言かもしれん、と気づいたのであった。「先生マルトミでGパンが500円で売ってたよ!」「Gパンが500円で何を売んねん!」

確かに「売る」という動詞は「[売り手]が[買い手]に[商品]を売る」となるため、

通常「ガ」で表されるのは、動作主の[売り手]であり、目的格の[商品]を「ガ」で表す場合は、「売る」という形ではなく受身の「売られる」とさせるのが、規範的な文法に則った表現となる。

しかし、文法的には逸脱しているものの、こうした「イチゴが売ってた」という表現は単なる誤用とするには出現の頻度が高く、誤用であるにも関わらず使用されてしまう理由があると考えられる。

本稿では、まずこうした構文が、明智が言うように、世代や地域で限定された言い方であるのか、ということを検討するために、実際の用例にあたることにし、その用例から特徴となる要素を取り出し、検討してみたい。

2. 用例の検討

まず「[商品]が売っている」という表現について、このような形式が客観的なデータとして実際に存在することを証明する必要がある。

2001年5月1日現在、インターネットのロボット系検索エンジン infoseek (<http://www.infoseek.ne.jp>)を用いて調べた結果、検索語「が売」には4件、検索語「が売る」「が売り」「が売られ」「が売って」「が売っている」「が売ってある」「が売っていない」「が売っていない」はいずれもすべて同じサイト群を表示する検索結果の672件にヒットした。これらの計676件すべてにあたったところ、本来の格と合わない「[商品]が」となっていると解釈可能な例は計104例存在した。¹⁾ いずれも「売って(いる)」「売って(いた)」という形式となっており、「[商品]が売る」「[商品]が売った」という形式では存在しなかった。

ただし用例数の量から「イチゴが売っている」というような表現が、確実に市民権を得た一般的な表現となっている、と結論付けるわけではない。用例が存在したホームページは個人の記事や、掲示板で書かれたごく個人的なものがほとんどで、たとえば企業や公的機関のページにはヒットしなかった。つまり文章が公開されるまでに、何度か校正を経ているような文体には表れにくいということから、やはり「[商品]が売っている」という表現は、規範的な文法からは逸脱するものであると通常は考えられているようである。

しかし逸脱してもなお使われてしまうのは、この表現には規範的な文法に合う表

(注1)infoseekの検索プログラムの詳細については不明であるが、この結果から活用は一括して同類とみなし、連続した文字列ではないものもヒットさせるということがわかる。

現では表しにくい何らかの特徴があるためだと考えられる。

以下、この特徴をみるために104例のうち、あまりに一般性の低い物品である[商品]の用例を除外し、前後の文脈がなくても、ガで示されるものが[売り手]であるとは解釈できない「比較的一般性の高い[商品]」となるものを取りあげてみることにする。²⁾

「商品が売っている」「商品が売っていた」となる用例には、次のようなものがあつた。以下、原文のまま引用する。

- (1) 今日買い物に行くと水砂箱が売っているのを見つけた。なんとなく欲しかったけど、糖尿病が怖いのでやめた。

<http://www.toyonet.toyo.ac.jp/~te970185/urdn.html>

- (2) あまり時間がなかったので詳しく見れなかったが探せば何でも売っているんじゃないかと思うくらいいろいろな物が売っている。

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Miyuki/4700/225.html>

- (3) カラープリンタを購入されたのですね。お店に行くと名刺用の用紙が売っています。

<http://www.happy.gr.jp/home/96082900/rv/1800.htm>

- (4) ここではフィルムの種類も豊富でAPSも25と40枚撮りが売っています。

<http://www.nn.iij4u.or.jp/~bunny4/sinan/dlp/>

- (5) ここではかわいいTシャツが売ってます。

<http://www.nn.iij4u.or.jp/~bunny4/sinan/dlp/>

- (6) ここではエサが自動販売機で売っている。

<http://x.haun.org/diary/HNM16/index3.html>

(注2) 具体的には、次のようなタイプを外した。

- (a) ただ何よりかにより、この島であつた一番特筆すべき事は、なんでもないただのおみやげ売ってる露店でのはちびが売ってたことなのじゃ!! なんで、なんで??のは一族はめーどいんじゃーまにー。ドイツ語圏では目撃されてたし、ゲットしたし、まあ分かる。でもなんでイタリアの、それもこんな露店で売ってる?

<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~pluto/trip/staria/2.html>

- (b) 駅の自販機で、なっちゃんが売ってるか確かめてみる。売ってない。

<http://www.nekojita.com/basic/member/fuku/diary/19990919/index.html>

- (7) 私が以前住んでいたところや、実家の近くのスーパーでは鯛のあらが売っているのでそれを利用しました。

<http://www.betiz.nu/cooking/supper/taimeshi.html>

- (8) 終末の過ごし方の酒集が売っていた。しかし金がなく、泣く泣くあきらめる

<http://www.toyonet.toyo.ac.jp/~te970185/urdn.html>

- (9) 深川江戸資料館の通りにある鳥のいない小鳥屋。ウグイスのフンが売っていた。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~naki-usa/trip/hukagawa/index.html>

- (10) 5年程前に、500円でファーバーカステルの製図ペンのセットが売っていたので買ってきてしまっていました。

<http://www1accsnet.ne.jp/~northfox/stationery/stmemory/stmem11.html>

- (11) ジュースだけじゃ、口寂しいので、何か無いかな?と探すと、揚げじゃがが売っていたので買う。

<http://member.nifty.ne.jp/tikecamp/sub001/s001t009.html>

- (12) 250円もする巨大なめろんばんが一時期売っていて、いつか買おうと思っているうちに消えてしまって、最近では200円の少し小さめめろんばんが売られている。

<http://www.geocities.co.jp/Foodpia/2584/tokyuensen.html>

- (13) 100円ショップもここまで来たか!と思った。なんでかってCD-Rのメディアが売っていた。

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/5562/nikki.00.6.html>

- (14) 多分おんなじのが売っていたら私は間違いなく買っちゃうでしょう・・・

<http://www.people.or.jp/~AKIKA/dry.html>

- (15) コンビニでカップヌードル・スケルトンが売っていたけど、180円とカップヌードルにしては高額だった為、購入を断念。

<http://www.kitec.co.jp/~sho/mikki/199909/>

- (16) 家の学校の近くの「やまざき」で、このHPに載っていたカフェオレが売っていました。

<http://www1.odn.ne.jp/mastui/070040log.htm>

- (17) 地元の生協のお店でぶりのアラが売っていたんですが、大根が2切れだけついて「ぶり大根セット」となっていた

http://www.sainet.or.jp/~mie_u/data/data98-2.html

また「商品が売っている」「商品が売っていた」が表れる一つのパターンとして、商品を「っての」でマークしている例が多くあった。「っての」は「というの」の縮約形である引用形式で、対話の場合には話し手と聞き手の知識に共有されていないことを示すものであると考えられるが、今回の検索条件からは「というの」「っていうの」という形のものには検出されなかった。これは infoseek の検索プログラム上の問題なのか、登録されているホームページに偶然存在しなかったのか、原因は不明である。⁹⁾

(18)花粉症に効くお茶って甜茶が有名だけど、私あれが甘くて苦手なんです、他にも効くお茶ってのが売っていたので、買ってみた。

<http://www.geocities.co.jp/AnimalPark/1294/mydia04.html>

(19)個人的には、新潟の柏餅ってのが売っていたので、試してみようかと思ってます。

<http://www.asahi-net.or.jp/~IV7A-NGS/umai/brdlog2.htm>

(20)今日は、初めて神戸の異人館の方に行きました。そこで、六甲牧場のソフトクリームってのが売っていたのだ。

<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/8902/200001.html>

(21)そしてベコモチってのが売っていて名前に惹かれて1つ買って食べたよ。

<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Domino/6527/hakodate1.htm>

(22)このスケルトン・キーボードはなかなかおもしろい。簡単にいえば、キーボードの埃よけのカバーってのが売っているでしょう、あれがキーボードになっていると想像してOK。

<http://www.ne.jp/asahi/a/1/go/gotaku/0002/000220.htm>

(23)4倍VM(PCとパラレルポートで通信可)ってのが、<http://www.levelsix.com/index.html>で売っているようです。

http://www.and.or.jp/~rainbow/these_days/9910/991004.html

(注3)なお infoseek に登録されていないサイトには(c)のように「っていうのが売っている」の用例もあった。

(c)っていうか、近所のファミリーマートには「サラダエッセンスのフライドポテト」っていうのが売っているので、もしかすると、他の種類のやつがあるのかもしれませんが。

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Soseki/9011/29/huraidopotetonoohanasi.html>

また、「売る」を「X(人)がY(人)に[商品]を売る」という三項動詞であると見た場合、「二」で表されるものは、商品を買う客、すなわち商品の[移動の着点]となるが、[売り手]としての解釈も可能となる[場所]を表す名詞が、(4)~(7)、(15)~(17)、(23)のように「ア」で表されているものだけでなく、(24)~(27)のように「二」で表されている用例もあった。

(24) 渋谷ロフトに、携帯用詰め替えハミガキコいれが売っています。

<http://www.mitomo.com/baklog/b14/ps15707.html>

(25) ちなみに私の田舎にはこんなお菓子が売っている。

<http://www.2.justnet.ne.jp/~ginesu/HITORE98.HTM>

(26) いつも行く成城石井にめずらしく小石大の新ジャがが売っていた。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/3045/nikki.html>

(27) C-YOUに、i will の Ultra SCSI ボードが3,780円で売っていた。

http://www.and.or.jp/~rainbow/these_days/200002/20000229.html

3. 用例から抽出される特徴

テンスとしては「売っている」「売っていた」のどちらでも用いられていることが確認できた。また伝える意図としては、いずれも「商品として物が存在していたから、買おうと思った」という報告、あるいは「商品として物が存在しているから、読者にも買うことができる」といった情報の提供を表すものがほとんどであった。これらの用例に共通する特徴には、以下の3点があげられる。

- a) 売り手が明示されていない。また売り手ともなる商店名・販売所等が、「ア」または「二」によって場所として表されることがある。
- b) 商品の所有権が売り手から買い手に移動するような事柄を示さない。
- c) 必ず「売っている・売っていた」というテイル形による状態化した表現となる。

つまり「商品として物が存在している」ということだけを述べたい時に、この「[商品]が売っている」の構文スタイルをとりうる、ということになる。

4. 「売る」という動詞について

このような、他動詞でありながら動作主以外のものが「ガ」で示され自動詞的な表現になってしまうことが、他の動詞でもおこりうる現象であるというのならば、そこから分析の余地もあるが、現段階では類例が見あたらないので、特に「売る」に出現できてしまう理由を中心に検討したい。

奥津(1967)、松岡勉(2000)では、形態上でのパターンから他動詞「売る」と対応する自動詞は「売れる」であるとしている。また寺村(1982)では他動詞から派生した自発・可能の表現として「売れる」を例にとりあげている。

一方、早津(1989)では「売る」を無対他動詞であるとし、野田(1991)では「売る」は「買う」と「形態的には共通する部分がないが、意味的・構文的にヴォイスの対立を表すと考えられるもの」である「語彙的なヴォイスの対立」であるとしている。

いずれにしても「売る」は基本的には、代金と引き替えにイチゴの所有権が売り手から買い手へ移るという、「買う」ことが同時に成立する場面で用いることができる。

(28) 「太郎は花子にイチゴを売った」

(29) 「太郎は花子にイチゴを売っている」

したがって、この(28)(29)の同一行為・事態を、視点を変えて捉えた表現としては、それぞれ(30)(31)のように言い換えることができる。

(30) 「花子は太郎からイチゴを買った」

(31) 「花子は太郎からイチゴを買っている」

また(28)～(31)の場合、商品である対象に視点に移せば「イチゴが売れた」ということもできる。このような場合の「売る」は「売れる」と自他対応するものであるということもできる。つまり、「買う」行為が、「売る」行為を必ず前提としているのと同様に、「売れる」は「買う」ことを同時に成立させる場合に用いられる。

ところが「売る」は「買う」行為が成立しない、つまり買い手が見つからない場面でも用いられることもある。

(32) 「太郎はイチゴを売った。(しかし誰も買わなかった)」

(33) 「太郎はイチゴを売っている。(しかし誰も買わなかった)」

(28)(29)のような場合には「ニ」で示されるのは[買い手]となるが、(31)(32)では事実上買い手がないので、買い手を表すことができない。したがって(31)(32)は「ニ」が表れたとしても、[移動の着点]である[買い手]ではなく、(24)~(27)のように[存在の場所]の「ニ」としてしか解釈できないものになる。

また所有権の移動が発生しない場合の「イチゴを売った」は、「イチゴが売れた」という表現を自他対応形として用いることができず、自動詞的表現は「売れる」とは別の表現を選択しなければならない。つまり「売る」という動詞が使われる場合、所有権の移動があるかないかによって、対応する自動詞的表現が異なっているということになる。

このように所有権が移動していない場合の「売る」に対応する自動詞形がないことが、「イチゴが売っている」という表現を成立させてしまう要因の一つとなっていると考えられる。

5. 規範的文法に則った表現との違い

「[商品]が売っている」という誤用を避け、文法的に適う表現を用いると、(34)ヲ+他動詞の「[商品]を売っている」、(35)受け身の「[商品]が売られている」、(36)テアル形の「[商品]が売ってある」で表される。

(34)でも、これではイカンということで、ねずみ捕りを購入に！それでまた書いたのは、今まで丸っきり知らなかったが、いろんなところでねずみ捕りを売っている事だ。
<http://www.beatuk.com/BUK/oasis/TEXT/TANOLON/tanolont.html>

(35)250円もする巨大なめろんぱんが一時期売っていて、いつか買おうと思っているうちに消えてしまって、最近では200円の少し小さめめろんぱんが売られている。
<http://www.geocities.co.jp/Foodpia/2584/tokyuensen.html>

(36)19日が発売日のはずの夏コミのカタログが売ってあった。
http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Kaede/6501/dame/1999_July.html

井上(1976)は、「a.(太郎が)この箱にりんごを詰めている」「b.この箱にりんごが詰めてある」「c.この箱にりんごが詰まっている」というような「詰める・詰まる」などの有対他動詞を例に「a 他動詞+ている」「b 他動詞+てある」「c 自動詞+ている」に関して次のように説明している。

a文だけが動作主である主語を許し、b、c文ではこれが許されない。また、a文では動作主が省略されても、動作主が存在が含意されている。さらに、b文は表層構造に動作主格の名詞が許されていないのに、意味の上では、動作主格が省略されたa文と同じく、動作主の意味が含まれている。一方cでは、必ずしも動作主の存在が含意されているとは言えない。その他の点では、a、b、cはほとんど同義である。

これを(34)(36)にあてはめて考えると、(35)のヲ+他動詞文や(36)のテアル文では、動作主が実際に出現あるいは含意され、動作主を排除することができない表現になってしまう。同様に寺村(1984)でも自他の形態的な対立のある「鍵がかけられている」「鍵がかけてある」「鍵がかかっている」という表現を選択する場合の基準について、次のように説明する。

まず、その眼前の状態が、何らかの外部からの力、作用によってもたらされていたものであると捉えられた場合は、～ラレテイルか～テアルになる。そうでない場合、つまり自然にそのようにあると捉えられた場合は、自動詞の～テイルになる。次に、はじめの場合のうち、その「外部からの力、作用」が人が意図をもってした行為であると捉えられた場合には～テアルに、そうでない場合、つまり自然の力か、人の動作でも非意図的な動作による場合、～ラレテイルになる。

やはり(35)のような受け身文や、(36)のテアル文だと、非意図的または意図的に、何らかの外部からの力や作用によって、その状態がもたらされているものであることが含意され、自動詞での～テイルのように「自然にそのようにある」と捉えることができなくなる。

もっとも[商品]が「自然にそのようにある」ということは、現実にはあり得ないことである。また単に存在を表すのならば、「イチゴがある」といえば済むことでもある。しかし、話し手が事態を把握し伝達する際に、売り手の存在を意識せず、かつ一方でその商品が無料で手にはいるわけではない、ということ念頭においた場合、「商品として存在する」ということだけを表現する「売る」を用いた自動詞的表現が必要となる。そのため、この寺村(1984)の考察による選択基準を、消去法的に流用してしまっただのではないかと考えられる。

6. おわりに

本稿では、「イチゴが売っている」という誤用の出現頻度が高いことを取り上げ、用例から抽出した特徴から「売る」という動詞には、商品の所有権の移動があるも

の(有対他動詞)と、ないもの(無対他動詞)とがあり、「イチゴが売っている」は、その発話される状況を、所有権の移動がなく、ただ「商品として存在している」ということだけで表現したい時に用いられていること、しかし実際は所有権の移動がない「売る」は無対他動詞であると一般に認識されているので、状態化のテイルを用いた「売っている」を自動詞形を流用してしまうことは誤用となることを述べた。

なお「売る」以外の無対他動詞で目的格が「ガ」で示されてしまうものでは、「映画がやっている」「番組がやっている」などの動詞「やる」による「がやっている」がある。また「〇〇が掲載している」「〇〇が連載している」などの「漢語+する」でも、目的格が「ガ」で示されてしまうことがあるものがある。

しかしこれらの問題は、今回の「が売っている」とはまた別の、省略や再帰性、漢語動詞の持つ意味などの要素が絡んでいることが予想されるので、別の機会にとりあげることにしたい。

【参考文献】

井上和子(1976)『変形文法と日本語(下)』大修館書店

奥津敬一郎(1967)「自動詞化・他動詞化および両極化転形——自・他動詞の対応——」
『国語学』70

金水 敏(1994)「連体修飾の「～タ」について」『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版

影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版

須賀一好(1981)「自他違い——自動詞と目的語、そして自他の分類——」『馬淵和夫博士退官
記念国語学論集』大修館書店

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

野田尚史(1991)「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」

『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版

野村剛史(1982)「自動・他動・受身動詞について」『日本語・日本文化』11

早津恵美子(1989)「有対他動詞と無対他動詞の違いについて——意味的な特徴を中心に——」
『言語研究』95

益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版

松岡弘監修・庵功雄、高梨信乃、中西久美子、山田敏弘(2000)『日本語文法ハンドブック』
スリーエーネットワーク

森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院

(2001年6月28日 受理)